

高等学校等におけるオンライン国際交流の事例

新型コロナウイルス感染症の影響により、現時点においても、日本人高校生等が海外に留学することは難しい状況が続いています。このような中、海外留学に代わる取組みとして、ICTの活用によるオンラインでの国際交流を行う等、各学校において、様々な工夫により、生徒の異文化理解や国際的視野の涵養に資する取組みが行われています。

ここでは、各自治体や各学校のICTを活用した国際交流の特徴的な事例を紹介します。



姉妹校提携による取組み【東京都 大妻多摩中学高等学校】

姉妹校（オーストラリア）との国際交流プログラムが中止された代替として、語学力向上と異文化交流を目的に、オンラインで互いに英語と日本語を学び合う語学研修やライブで両校の授業をつなげた共同授業、更に北半球と南半球という地理的な違いによる「天体の見え方の違い」や国を超えての「SDGs に対する取組み」なども話し合いのテーマに含め、理科や社会での学びを深める取組みも行った。本校からは中学3年生・高校2年生の生徒延べ67名、姉妹校からは高校1～3年生延べ36名が参加した。

【プログラムの内容】

- ・8月：「自己紹介」を中心に「将来の夢」等も話し合いながら、互いを理解する取組みを行った。
- ・9月：本校の英語の授業と姉妹校の日本語の授業による共同授業を行った。
- ・11月：「北半球と南半球での天体の見え方の違い」「SDGsに対する取組み」など理科や社会の授業で学んだ内容をテーマに含めた学び合い・意見交換を行った。

【工夫した点】

- ・交流時間を英語のみ・日本語のみを話す時間に分け、互いに語学を学び合う時間を確保。
- ・小グループをつくり、1人1人の生徒が発言できる機会を確保。
- ・理科や社会の授業で、その時に扱っていた分野を話し合いのテーマに含め、学びを深める取組みを行った。

【今後の課題】

- ・姉妹校では本校との交流のために有志生徒によるクラブが発足予定。今後、本校においても有志を募り、両校生徒の企画・運営によるオンライン交流・協働学習を行う予定。



【経緯】

2013(平成25)年3月	オーストラリアの私立ブリジティーン・カレッジと姉妹校協定を締結。その後、修学旅行での受け入れやターム留学など毎年両校生徒が互いの学校を数日～1ターム訪問・留学する国際交流プログラムを実施。
2020(令和2)年4月	新型コロナウイルス感染症の影響により、従来行っていた国際交流プログラムが延期・中止。
同年8月	オンラインによる語学研修・異文化体験研修を開始。

海外中等学校との連携による取り組み【栃木県立佐野高等学校】

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外フィールドワークを実施することができなかった。そこで、昨年度訪問したマレーシアのクチンにあるセント・テレサ・セカンダリー・スクールの生徒とオンラインで国際協働課題研究を行うこととした。佐野高校から3名セント・テレサ校から3名の6名で1グループとし、全部で5グループ作成した。世界の「共通言語」とも言えるSDGsを達成するために、各グループで研究テーマを設定し、週1回程度SNS等を用い英語でディスカッションした。2020（令和2）年の7月に協働研究を開始し、約5か月間に渡って議論を重ね、12月に最終発表を行った。

【プログラムの内容】

- ・ 5か月にわたるプログラム
 - マレーシアに関する講演①地理・民族、②教育・自然
 - マレーシア長期滞在経験者によるマレーシア概論の講座
 - 課題研究方法講座
 - JICA訪問
 - ベトナムFPT高校との交流会・ディスカッション
 - 立命館宇治高等学校主催第3回全国高校生SRサミットFOCUSでの発表
 - 文科省主催高校生フォーラムでの発表



【工夫した点】

- ・長期にわたる協働研究だったので、適宜、担当者による面接を行い、モチベーションや方向性の確認、困っていることがないかなどチェックを行った。

【今後の課題】

- ・実施期間や協働研究のレベルの向上、語学力の向上などが課題となっている。



【経緯】

2019（令和元）年7月	SGHクラブ研究班の14名が課題研究のフィールドワークとしてマレーシアクチンを訪れた際、セントテレサ校と交流を行った。
2020（令和2）年7月	佐野高校・セントテレサ校 国際協働研究オンラインオープニングセレモニー
2020（令和2）年7月～12月	協働研究実施（5か月間）
2020（令和2）年12月	佐野高校・セントテレサ校 オンライン合同最終発表会

海外の大学との連携による取組み【長野県須坂高等学校】

イギリスからの講師を招聘し、3日間英語漬けで学習をする「English in Action」が中止となった。その代替として、オンラインと対面のハイブリットによる、1学年全員（240名）が3日間英語漬けで学習をする「須坂アカデミックチャレンジwith Harvard Students 2020」を実施。オンラインの強みを生かし海外と教室を直接結ぶ一方、対面授業では多様な国籍のインストラクターによるワークショップで生の英語を体験。多様な価値観に直接触れることで、グローバルな視点とクリティカルな思考を養い、英語力とコミュニケーション能力の向上、海外留学への意識の向上を図った。

【プログラムの内容】

・3日間のプログラム

- Harvard Talk Session：ハーバード大学生とオンラインで意見交換。海外大学生と直接対話することで、異文化理解と学びの方法を知る。
- Online HBSワークショップ：ハーバード大学卒業生が、Conformity（順応性）と過労死問題についてワークショップを実施。
- JAAC（日本学術センター）ワークショップ：日本在住のオーストラリア人、エジプト人、シエラレオネ人、オランダ人の講師を招聘。対面で4つのワークショップを英語で実施。（How should we evaluate students? / Art as Activism / Egyptian Hieroglyphs / SGDs in Japan）



【工夫した点】

- ・1学年（6クラス 240名）全員が3日間で全てのプログラムを体験。全員が参加することで、「信州グローバルハイスクール」実践校1年目のミッションを遂行し、英語力向上だけでなく、各自の将来のキャリアについて考える機会とした。
- ・最終日には、3日間の学習の成果として、地元を紹介するプレゼンテーションを各HRで実施。
- ・オンラインのメリットを生かし、ハーバード大学学生とライブでディスカッションすることで、実践的な英語力の向上とグローバルな視点の涵養を図った。



【今後の課題】

- ・事前学習のありかたと、授業や実施学年との連携。経費。



【経緯】

2018年～	文部科学省「国際文化交流促進費」補助事業により学校主催海外研修開始(マルタ共和国、シンガポール共和国)
2019年～	長野県サイエンスアソシエーションプロジェクトにより学校主催海外研修開始（スリランカ民主社会主義共和国、タイ王国）
2020年4月1日	長野県教育委員会より「未来の学校：信州に根差したグローバルな学びを推進する高校」実践校として指定を受ける。
同年11月25～27日	「須坂アカデミックチャレンジwith Harvard Students 2020」を開催。成果と反省を生かし、来年度は1・2年生で実施予定。

オンライン・オフラインを活用したハイブリッド型の取組み【徳島県教育委員会】

県主催の英語学習・異文化体験プログラムである宿泊を伴う「徳島グローバルキャンプ」の実施が難しくなったため、その代替として、日本の大学に留学中の海外からの大学生を活用して、オンラインによるプログラム（英語によるアクティブ・ラーニング型ワークショップ）とオフラインによる異文化交流会を組み合わせ実施。県内の高校生39名が参加し、2020年（令和2年）12月に3日間（オンラインは1日あたり3時間程度）の日程で実施。

【プログラムの内容】

- ・3日間の英語によるアクティブ・ラーニング型プログラム
 - Explore the World：複数のグループリーダー（国内留学生）の出身国の文化や生活、国旗の意味などを学ぶ
 - Opinion Exchange：“What are the attractions and challenges of global society?”をテーマにグループ協議
 - Amazing Japan：徳島の魅力についてグループリーダーにプレゼンテーション
 - Flag making & Group presentation：“Design Our Ideal Future”をテーマに理想の世界を表す旗の作成と、その実現のためのアクション・プランをグループごとにプレゼンテーション
 - ・異文化交流と阿波文化体験：地元大学に在籍している留学生をゲストに迎え、座談会形式で交流と阿波踊り体験。
- ※参加者アンケートによると、チャレンジ精神や外向き思考に関してキャンプ後には大きく数値が向上しており、「グループリーダーや留学生のように夢や情熱を持って何にでも挑戦したい」といった感想が寄せられた。

【工夫した点】

- ・ネットワーク環境担当者を常駐させてシステム管理
- ・パソコン＋スピーカーフォンを使った班活動とスクリーンを使った全体会
- ・県内の留学生も参加し、生徒が直接外国人と交流する機会を提供
- ・小グループで生徒が発言できる機会を確保

【今後の課題】

- ・オンラインならではの良さや特徴を活かしたプログラムの開発

【経緯】



令和元年 8月	「徳島グローバルキャンプ」（西部通学型5日間/南部宿泊型6泊7日）を実施。海外大学生を招聘し、小グループでのアクティブ・ラーニング型英語プログラムと地域文化体験学習，社会人との座談会等を行った。
令和2年 5月	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、従来実施していた「徳島グローバルキャンプ」の実施方法について見直しを検討。オンラインを活用することとし、生徒募集は県内の感染状況を見ながら9月に行うこととした。
同年 12月	オンライン・オフラインのハイブリッド型「徳島グローバルキャンプ」実施

海外の教育機関との連携による取組み【北海道教育委員会】

道教委とカナダ・アルバータ州教育省が主催する高校生の交換留学事業において、生徒の相互派遣が実施できなくなったため、代替事業として、派遣を予定していた生徒9名を対象に、交換留学のパートナーとビデオ会議ツールを活用したオンライン交流を実施した。

【プログラムの内容】

- ・ホスト期間とゲスト期間を設定し、それぞれ4週間を1単位として、平日と週末の週2回、全体で16回のオンライン交流を実施。
- ・使用言語は、英語及び日本語。基本的には、ホスト側の母国語を交流言語として使用。
- ・北海道の生徒は、平日は学校で、休日は生徒の自宅で交流。学校における交流では、北海道の教員が双方の生徒のコミュニケーションをサポート。



【工夫した点】

- ・アルバータ州教育省と協力して交流テーマのリストを作成。生徒がリストから事前にテーマを選択することで、コミュニケーションの活性化を図った。
- ・道教委とアルバータ州教育省の職員がファシリテーターとなり、プログラム開始前にパートナー同士の事前交流会を実施。円滑な交流の実現に向けて、生徒の不安や緊張を取り除く機会を設定し、良好な人間関係の構築を図った。



【今後の課題】

- ・参加生徒及び担当教員を対象としたICT活用スキルの向上に資する研修の実施
- ・生徒の資質・能力の育成に向けた交流内容の検証及び事業の改善



【経緯】

1980（昭和55）年10月	北海道とカナダ・アルバータ州の姉妹提携の調印式を施行。
1994（平成6）年6月	北海道・アルバータ州高校生交換留学促進事業に係る参加生徒の募集を開始。（以降、各年5～10人を相互に派遣。2019年までに208名を派遣）
同年10月	新型コロナウイルス感染症の影響により、2020（令和2）年度の交換留学事業の中止を決定。同時に、代替事業として、オンライン交流の実施を決定。
同年11月～12月	第1期オンライン交流プログラムを実施。
2021（令和3）年1月～2月	第2期オンライン交流プログラムを実施。

他機関との連携による取組み【千葉県立成田国際高等学校】

(1) 特定非営利活動法人パルシックと連携し、東ティモール現地スタッフとつないだ国際理解セミナーを企画した。参加希望者を募り、夏季休業中に実施、当日は登校参加・オンライン参加の双方があった。現地からは東ティモールの歴史や、コーヒー生産者支援活動などについて報告していただき、それにつづく活発な質疑応答とディスカッションで理解が深まった。その後、(2) 文化祭(例年、フェアトレード商品を販売していた)が中止になった代替として、国際交流委員会(生徒)が主体となってフェアトレード商品販売会を企画した。平日の昼休みに5日間にわたり、パルシックの東ティモール産コーヒーをはじめ各種フェアトレード商品を販売、あわせて啓蒙活動・募金活動を実施した。

【プログラムの内容】

- (1) オンライン国際理解セミナー
 - ・参加 希望生徒(37名)、卒業生(1名)
 - ・講師 パルシック東ティモール事務所代表
 - ・内容 東ティモールの地理・歴史、NGOによる支援活動、東ティモールのCOVID-19対策
 - ・進行 報告講演、質疑応答、グループディスカッション、発表
- (2) フェアトレード商品販売会
 - ・事前 講師を招聘して勉強会を実施、啓蒙パンフレットを作成して各クラスに配付した。
 - ・商品 パルシックをふくむ数団体から、コーヒー、紅茶、チョコレートなど食品・雑貨を仕入れた。
 - ・販売 生徒・職員対象に平日の昼休みに5日間にわたり開催、売上金は国際協力団体に寄附した。



【工夫した点】

- ・国際理解セミナーは、①登校しての参加、②オンライン参加、どちらでも可能な態勢をとった。
- ・パルシックが生産支援するコーヒーやハーブティーを試飲するなど、体験の要素を取り入れた。
- ・学年をまたぐグループを編制してディスカッションし、3年生のリードで議論の活性化を図った。
- ・教員と生徒が協議しながら企画を進めることで、生徒の主体性・協働性を引き出そうとした。

【今後の課題】

- ・希望者や委員会生徒が中心の課外活動であった。今後は学年・学校全体へ広げていきたい。



【経緯】

2015年(平成27年)～	スーパーグローバルハイスクール事業のプログラム開発で連携 2016年～2019年、夏季休業中にマレーシア・フィールドワークを実施 その他にも講演会(課題研究)や文化祭でのフェアトレード商品販売など、連携を広める
2018年(平成30年) 1月	JICA(地球ひろばセミナー)にて連携の実践事例を共同報告
2020年(令和2年) 8月	オンライン国際理解セミナー
2020年(令和2年) 11月	フェアトレード商品販売会

グローバル・リーダーシップ養成研修代替プログラム開催の取組み 【学習院高等科】

ハワイ州プナホウ・スクール主催のSGLI (Student Global Leadership Institute) 2020が、COVID-19の影響により開催中止になったため、参加予定校だった慶應志木高等学校、福井高等学校と連携して、ビデオ会議によるオンライン・ワークショップを2回開催した。SGLI2020のテーマ「健康（とくにメンタルヘルス）」について各校代表の3人が取組みを英語でプレゼンテーションし、その後全体で意見交換等を実施。

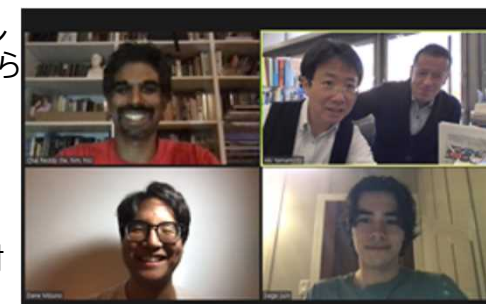
【プログラムの内容】

- テーマ：Mental Health(心の健康)
- 準備：各校ごとに代表3人が英語での学校紹介ビデオ作成ならびにMental Healthの各校の取組みのサーチと自分たちができることの模索をする。オンライン・ワークショップは、第1回が慶應志木高の文化祭、第2回が学習院高等科の文化祭の中で行われた。
- 第1回オンライン・ワークショップ：慶應志木高が主幹になり、①三校の学校紹介ビデオ(英語)上映、②各校の取組みの概要を英語で説明。SGLI経験者の大学生もオンラインでハワイと横浜から参加。
- 第2回オンライン・ワークショップ：学習院高等科が主幹になり、①第1回のふりかえり、②各校のメンタルヘルスについての取組みを英語でプレゼンテーションし、オンラインによるハワイとサンフランシスコのゲストからコメントや質問をいただく。



【工夫した点】

- 第2回オンライン・ワークショップでは、ハワイとサンフランシスコをインターネットでつなぎ、SGLIの元事務局長やSGLI経験者二人にも参加していただき、コメントをいただいた。学習院高等科文化祭では感染対策を講じてオンラインと対面のハイブリッドで行った。



【今後の課題】

- 来年度もSGLIは中止になる可能性があり、参加予定校に声をかけてオンライン・ワークショップを計画する。

【経緯】

2012(平成24年)	学習院高等科がSGLIに参加を始める。以降、毎年参加
2020(令和2年)3月	SGLI2020中止の知らせを受けて、生徒、担当者で代替案を模索開始
同年10月23日と30日	オンライン・ワークショップ実施



他機関との連携による取組み【山口県 サビエル高等学校】

本校には文科省補助事業としてAFSが実施する「アジア高校生架け橋プロジェクト」で来日した生徒が留学しているが、彼女たちの来日は年度初めの予定から約半年間延期された。そこで来日前から交流を深めるため、AFS主催のオンラインミーティングを活用し、生徒による学校の紹介やお互いの国紹介などのセッションを実施した。セッションは2020年8月～11月不定期に計5回実施、AFSスタッフがファシリテーターとなり、本校生徒のべ54人と今年度来日した留学生5か国6名、前年度までに同プロジェクトで留学していた6名が参加した。

【プログラムの内容】

- 各セッションは約60分間とし、ASFスタッフの進行によって生徒によるプレゼンテーション・質疑応答・情報交換などを行った。
- 事前のプレゼンテーション準備として、意見交換をしながら生徒自身でスライドや原稿を作成した。使用言語は英語。
- 各セッションのテーマ：①サビエル高校の紹介、②サビエル寮の紹介、③留学生による各国紹介と生徒によるWelcome Speech、④⑤生徒によるサビエル高校の新しい生活様式紹介とASFスタッフによる日本の食事マナーの紹介。



【工夫した点】

- 過去2年間に同プロジェクトで本校に留学していた生徒にも参加を呼びかけ、交流の場を広げた。
- 留学生の来日前の不安を減らし、本校生徒が留学生の受け入れを実感できるよう、生徒の意見も聞きながらセッション内容の改善を重ねた。
- 生徒同士の交流が深まるよう、質疑応答の時間を積極的に設けた。



【今後の課題】

- 自宅等でオンラインセッションに参加する生徒への支援。
- 次年度以降の来日前オンラインセッションの実施を企画。

【経緯】

2019年	AFSと「アジア高校生架け橋プロジェクト」による留学生を受け入れることに合意。
2020年3月	新型コロナウイルス感染症の影響により、同プロジェクトの留学生来日の延期決定。
同年6月	AFSよりビデオ会議ツールを活用したオンラインでの留学生との交流が提案され、参加決定。参加生徒の募集開始。
同年8月～11月	オンラインセッション実施



イングリッシュ・デイの取り組み（サイエンス情報科 1年）【熊本県立熊本西高等学校】

令和2年度に開設されたサイエンス情報科ではグローバル人材育成の一環として、1年次にイングリッシュキャンプ、2年次にシンガポールへの修学旅行を計画している。本年度は校外でのキャンプが中止となったため、12月4日（金）に校内でイングリッシュ・デイを開催した。個々の英語力の向上とシンガポールについての知識を深めるため、ZOOMを活用し、県内ALTや本校ALTの協力を得て実施した。

【プログラムの内容】

- Singapore Lesson 1 :シンガポール出身のALT（山江村教育委員会所属）によるパワーポイントを使用したシンガポールについての授業。
- WEST High Presentation:40名の生徒を8班に分け、熊本西高等学校紹介を英語で実施。
審査員は本校ALTの友人（アメリカ在住・8名）。
- Singapore Lesson 2 :現地旅行会社スタッフによるシンガポール案内。

【工夫した点】

- 山江村教育委員会の協力で山江中学校とZOOMをつないだ。3か月前に依頼したことで準備の時間を十分とることができた。ALTによる工夫を凝らしたパワーポイントがとても素晴らしく、生徒の興味を引いた。
- プレゼンテーションでは8テーマ（History, Campus Tour等）から選び、作成には英語、情報の授業やLHRを活用した。GOOGLE SLIDEで作成し、生徒同士で同時に作業ができるようにすることで効率的に作業ができた。アメリカとの時差を配慮し、プレゼンテーションは現地の19時過ぎを目安に設定することで、本校ALTの友人が審査員として参加してくれた。
- 実際にシンガポールとつなぐことにより、現地在住の日本人の説明を聞き、シンガポールについて質問することができた。



【今後の課題】

- ICT機器の接続不良でスムーズにZOOMが繋がらなかったこともあり、ICT接続等に詳しい先生に協力を仰ぐ必要がある。
- 教科間の連携が必要。英語の授業だけでは準備不足。

【経緯】

2020年（令和2年）7月	新型コロナウイルスの影響によりイングリッシュキャンプの中止決定。イングリッシュ・デイに縮小。
2020年（令和2年）9月	山江村教育委員会へALTの協力依頼。シンガポール在住の旅行会社スタッフへの協力依頼。
2020年（令和2年）11月	本校ALTの友人にZOOMによる交流の協力依頼。WEST High Presentation作成開始。
2020年（令和2年）12月	イングリッシュ・デイ実施。